

建築系学生奨励事業

卒業設計コンクール12年を振り返って

副会長 高梨 智浩

昨今の都市計画や建築デザインに於いても、ITC革命時代にふさわしい斬新な発想が求められています。そのような中、新しい世紀の第一線で活躍が期待される建築系学生の能力向上育成を図る目的で、次代を先取りした意欲ある作品を広く募集し、若い学生たちの考える創造価値と熱意を奨励します。特に当協会としては「埼玉」を分析し、再構築を試みることにより街づくりの活性化を図り地域を変える起爆剤となるような夢あふれる作品を待っています。また一般の方々にアピールを行います。

平成12年に協会事業の一環として県内建築系学生奨励事業委員会を発足させ、建築系大学生を対象とした卒業設計コンクールを開催し、今年で22年の歳月が経過いたしました。(22年間で599作品が応募)この間時代は目まぐるしく変貌し、初期の応募作品では都市再開発をテーマとした作品が多く見られましたが平成30年・第18回より埼玉県知事賞が授与されることにより埼玉をテーマにした作品も多くみられるようになりました。こここれまでの卒コン展(第11回から第22回)で特に記憶に残っている事がらを追ってみます。

第11回目

昨年節目の10周年を迎え新たな気持ちでの第一歩となりました。県内の建築設計に関係する全ての団体が共催するイベントの再スタートとなり、学生諸君の作品も力作が揃いコンクールを盛り上げてくれました。また今回から特別審査員賞の選出を変える事により以前よりもテーマ性が重視された作品が選出される事となりました。

第13回目

今回の開催より上田県知事が視察に来られるようになりました。埼玉賞受賞者芝浦工業大学荻野克真君と「夢を持ち新しいことにチャレンジすることが大切で、そこから新しい技術が生まれる」と若い才能を称える感想を述べられました。その後の卒コン展には必ず視察に来られるようになり熱心に受賞者の話を聞く光景が恒例となりました。

第15回目

日本工業大学岡部彰寛君が第7回の卒コン以来に最優秀賞・埼玉賞のダブル受賞となりました。埼玉作品が最優秀となるケースがまれななか、団地と周辺環境をつなぐネットワーク拠点構想の作品でした。

第17回目

第16回・第17回と2年間、耐震改修工事のため埼玉会館が使用できず川口リリア展示ホールでの開催となりました。会場変更に伴い委員会メンバーと何度か下見に訪れことを思い出します。今回の埼玉賞受賞作品は日本大学福田奎也君「あばれ櫓」本人の地元吉川市の祭りを題材としたもので、後日吉川市長との意見交換・市役所に作品展示を行いました。また準埼玉賞の東京理科大学大澤祐太郎君「こいのぼりの倉庫」も加須市長への表敬訪問と市役所に作品展示を行いました。

第18回目

県庁担当課と1年打合せを重ね念願であった埼玉県知事賞が設けられました。栄えある埼玉県知事賞は日本大学外山純輝君「拝啓〇〇様」-時に囲われたあなたの居場所- 川越の伝統的建造物群保存地区に新たな施設を新築。地域住民からヒアリング調査を行いながら提案された作品。今回も昨年同、川越市長への

表敬訪問と市役所に作品展示を行いました。卒業設計の提案を基に、産官学が連携して地域の問題解決や賑わい創出など新たな活動の一步にもなったと思います。

第19回目

今回から審査委員長が衣袋審査委員長から岩城審査委員長に代わられました。そして就任後の初仕事なんと埼玉県知事賞の決選投票が同票だったためどちらかを決めるという大仕事となりました。(このジャッジは岩城審査委員長が初) 軍配は日本工業大学綱川毅君の「ホームセンター・ハイスクール」ものづくりを通じて集まる学びの場 に上がりました。

第20回目

節目となる第20回、応募数43作品と過去最も多くの作品が集まりましたがコロナウイルス感染症拡大によりやむなく開催中止となりました。今回の会報には応募作品全てに会員からのコメントを加えた特集記事としました。コメント作成に頭を悩ませた会員が多くいた様でした。

第21回目

コロナウイルス感染症の収束がみえない中、感染対策として今回はインターネットを活用してのオンライン開催とし公開Web審査を行いました。卒コン委員会として初の試みでしたが成功裡に終わることが出来ました。学生の皆さんもオンライン授業での卒業設計制作等さまざまな制約があった中、例年と引けを取らない力作が揃いました。埼玉建築設計監理協会賞受賞の東洋大学磯永涼香君「記憶の欠片をそとすくう」-人間魚雷「回天」の歴史を巡る出会いと別れの島- は副賞の海外研修旅行をフランスの隈研吾事務所でのインターンシップ費用にあてたとのことでした。

第22回

3年ぶりに埼玉会館で対面による卒コン展が開かれ、大変嬉しい開催となりました。大野県知事も会場に足を運ばれ受賞者と熱心に意見交換をされていました。

冒頭にもあげましたが、20年間殆ど変わることの無かった主旨文通り、奨励事業の役割を果たしていると思える程、卒業設計コンクールも確実に定着し、建築家の道を目指す若者にとってこのコンクールで賞を取ることが大きな自信と励みになり、登竜門的存在になっています。受賞者アンケートにもこの卒コン展が今後の人生を決めるおおきなターニングポイントとなったという報告が多数ありました。

最後に一言お礼を申し上げます。

委員会のメンバーは膨大な作業等を自発的にこなし、その時々環境・状況に適時に対応しそれを事務局(佐藤さん・森田さん)が支えてくれました。また来年からは他の委員会にエントリーすると言いつつも長年卒コン委員会に参加している皆さんが主と言われるまでになっています。そして高岡、片淵、栗子、田中歴代会長のリーダーシップや共催・協賛・及び賛助・後援等、ご支援ご協力を賜りました関係者の方々、JIA賞・住宅検査センター賞・埼玉県住宅供給公社賞・日建学院ポスター制作・総合資格作品集作成等と大きな花を添えて頂きました。そして第10回から第18回まで審査委員長をお努め頂き、また埼玉賞を県知事賞にとのご発声をして頂きました衣袋洋一先生に深いお礼と感謝を申し上げます。

また第19回から審査委員長をお引き受け頂きました岩城和哉先生には更なる学生奨励事業が充実、発展します様心から願っております。

卒コン展に参加された皆さんが大きく建築界に羽ばたくことを期待します。そして今後も時代をリードする夢のある挑戦的な作品の応募を期待しています。